

OPEN-PHEONET

参加施設

2011年2月現在

◆Open-pheonetとは？

褐色細胞腫に関する情報交換を目的としたメーリングリスト

◆目的・機能は？

検討委員会の活動の広報・情報提供、医師同士の情報交換、臨床研究の提案、学会・研究会の情報、症例の相談など

◆現在の参加者は？

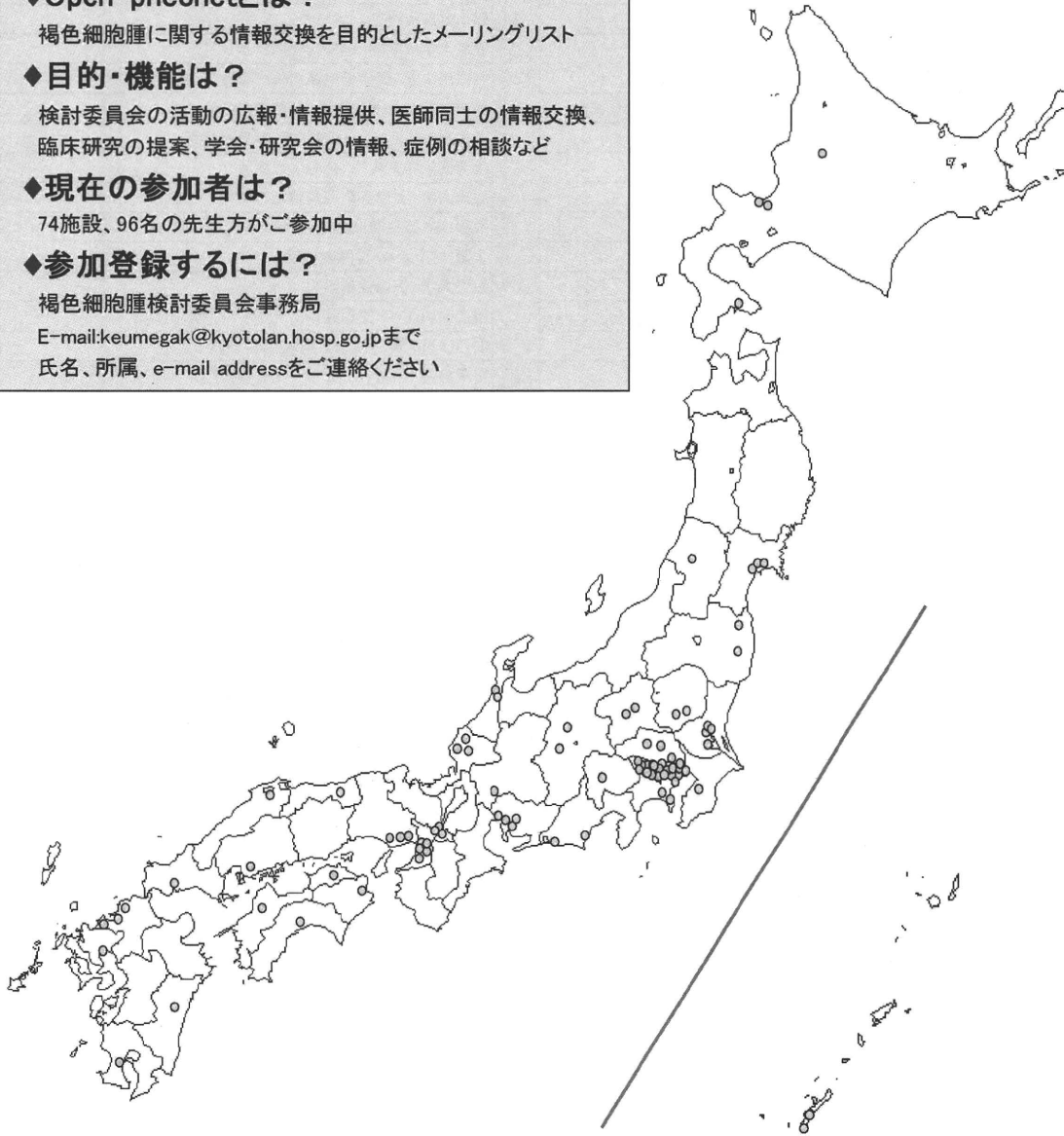
74施設、96名の先生方をご参加中

◆参加登録するには？

褐色細胞腫検討委員会事務局

E-mail: keumegak@kyotolan.hosp.go.jpまで

氏名、所属、e-mail addressをご連絡ください



OPEN-PHEONET 参加施設 一覧

地区	施設/診療科名	地区	施設/診療科名	
北海道	北海道大学 分子イメージング講座		福井大学 内科学3	
	手稲溪仁会病院		福井県済生会病院 内分泌・代謝内科	
	国立病院機構 函館病院 臨床研究部病因病態研究室		福井県立病院 内分泌代謝科	
東北地方	東北大学工学研究科生体再生工学講座分子病態工学分野	中部地方	浜松医科大学 第二内科	
	東北大学 腎・高血圧・内分泌学		朝比奈診療所	
	独立法人労働者健康福祉機構 東北労災病院		愛媛大学大学院 病態情報内科学	
	山形県立中央病院 泌尿器科		名古屋大学 医学部附属病院 乳腺・内分泌外科	
	福島県立医科大学 内科学第三講座（糖尿病内分泌代謝内科）		名古屋第二赤十字病院 糖尿病内分泌内科	
関東地方	群馬大学 大学院医学系研究科 病態制御内科学	近畿地方	名古屋医療センター 糖尿病・内分泌内科	
	群馬大学大学院 医学系研究科画像核医学		社会保険中京病院 内分泌代謝科	
	筑波大学 病態制御医学 臨床分子病態検査医学		岐阜大学 医学部附属病院総合内科	
	筑波大学 乳腺甲状腺内分泌外科		大阪府立急性期・総合医療センター 泌尿器科	
	土浦協同病院 内分泌内科		大阪大学 老年・腎臓内科学	
	千葉大学大学院 医学研究院 泌尿器科学		藍野大学 医療保健学科	
	青梅市立総合病院 内分泌代謝科		関西医科大学 泌尿器科	
	国立国際医療センター研究所 医療情報解析研究部		関西医科大学附属枚方病院 泌尿器科	
	国立がんセンター中央病院 乳腺・腫瘍内科		甲南病院 内科	
	財団法人癌研究会有病病院化学療法科、癌化学療法センター臨床部		大阪警察病院 外科	
	慶應義塾大学 医学部腎臓・内分泌代謝内科		京都大学 内分泌代謝内科	
	日本大学大学院 医学研究科内分泌代謝内科学		京都大学大学院医学研究科 初期診療・救急医学分野	
	日本大学 医学部内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野		京都大学 泌尿器科	
	日本赤十字社医療センター 糖尿病内分泌科		京都医療センター 内分泌代謝科	
	虎の門病院 内分泌センター		兵庫県立大学 生体機能学	
	自治医科大学 薬理学臨床薬理部門		神戸大学医学研究科内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	
	NTT東日本関東病院 泌尿器科		中国地方	島根大学 医学部内科学第一講座
	東京女子医科大学 第二内科			鳥取大学 医学部 病態情報内科学(内分泌代謝内科)
	日本医科大学 内分泌代謝内科			広島大学 医歯薬学総合研究科 分子内科学
	東京大学 臨床疫学システム講座			山口県立総合医療センター 循環器内科
東京医科歯科大学 内分泌代謝内科	地四 方国	高知大学 医学部内分泌代謝・腎臓内科病院・保健管理センター		
東京医科歯科大学 泌尿器科		香川大学 医学部内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科		
東京大学 医学部腎臓内分泌内科		九州地方	福岡赤十字病院	
東京大学 医学部附属病院 泌尿器科			済生会福岡総合病院 内科	
東京都立多摩総合医療センター 内科(内分泌代謝)			佐賀大学 医学部泌尿器科	
聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科	鹿児島大学 放射線診断治療学			
石心会狭山病院 外科	佐賀大学 医学部泌尿器科			
埼玉病院 統括診療部内科	佐賀大学 医学部地域医療支援学講座肝臓・糖尿病・内分泌内科			
杏林大学 第三内科(内分泌)	九州大学 病態制御内科学			
横浜市立大学 臨床検査医学	宮崎大学 医学部神経呼吸内分泌代謝内科			
横浜労災病院 内分泌・代謝内科	琉球大学医学部 内分泌代謝内科(第2内科)			
信州大学 遺伝医学・予防医学	医療法人 豊見城中央病院 糖尿病・生活習慣病センター			
中部地方	長野市民病院 内分泌代謝内科			
	金沢大学 核医学診療科			
	金沢大学 医学部泌尿器科学教室			

VI 班會議

打ち合せ会

シンポジウム

平成22年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」

遺伝子解析に関する打合せ会

日時: 2010年4月23日(金)
18:00~20:00

会場: 東京ステーションコンファレンス 403室

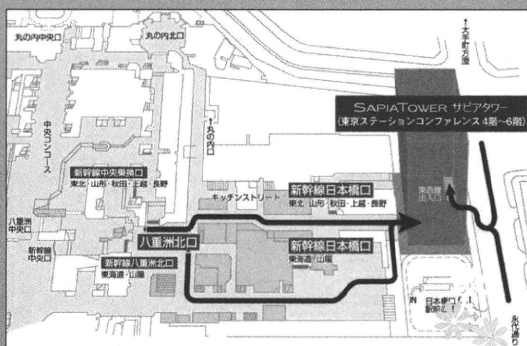
※ 軽食を準備致します。

議 題

- 1.本年度の研究の概要説明
- 2.遺伝子解析実施体制(筑波大学の場合)
- 3.海外における状況
- 4.多施設共同研究体制の具体案(組織・役割分担、倫理、医学的課題など)
- 5.今後の予定

出席者

成瀬 光栄	国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長
新保 卓郎	国立国際医療センター研究所 部長
加藤 規弘	国立国際医療センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部 部長
櫻井 晃洋	信州大学医学部 遺伝医学・予防医学 准教授 信州大学医学部附属病院 遺伝子診療部
竹越 一博	筑波大学大学院人間総合科学研究科 病態制御医学臨床分子病態検査医学 准教授
高橋 克敏	東京大学 腎臓・内分泌内科 助教



問い合わせ先

京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 事務局 梅垣
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
TEL: 075-641-9161 (内線6137) FAX: 075-645-8409

平成22年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」

病理解析に関する打合せ会

日時: 2010年5月8日(土)
13:00~15:00

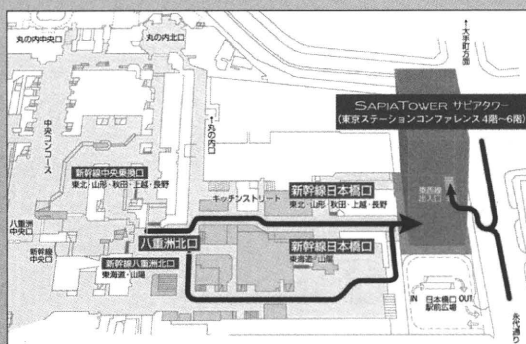
会場: 東京ステーションコンファレンス 403室

議 題

1. 本年度の研究の概要説明
2. 病理組織解析実施のための体制、方法、手段、役割分担、費用
3. 倫理的手続きについて
4. 疾患登録と病理組織所見の登録について
5. 難病研究資源バンクについて
6. 今後の予定

出席者

成瀬 光栄	国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長
平田 結喜緒	東京医科歯科大学 内分泌代謝内科 教授
木村 伯子	国立病院機構 函館病院 臨床検査部病因病態研究室 室長
加藤 良平	山梨大学大学院医学工学総合研究部・医学部人体病理学講座 教授
新保 卓郎	国立国際医療センター研究所 部長
加藤 規弘	国立国際医療センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部 部長
川村 孝	京都大学保健管理センター 内科学・疫学 教授
方波見 卓行	聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 内分泌代謝科



問い合わせ先

京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 事務局 梅垣
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
TEL: 075-641-9161 (内線6137) FAX: 075-645-8409

平成22年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」

研究調査実施に係る打合せ会

～難治性疾患研究資源バンクの活用とその方向性について～

日時: 2010年5月31日(月)
15:00～17:00

会場: 国立国際医療センター研究所

遺伝子診断治療開発研究部

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1

議 題

1. 本年度の研究の概要説明
2. 難病研究資源バンクについて
 - ①目的
 - ②組織・体制
 - ③倫理について
 - ④経費
 - ⑤実施の流れ
 - ⑥対象検体と今後の見通し
 - ⑦収集とその処理
3. 組織として難病研究資源バンク開発事業と難治性疾患研究の連携とその方向性について
4. 今後の予定

出席者

成瀬 光栄
加藤 規弘
増井 徹

国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長
国立国際医療センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部 部長
独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部 部長
政策・倫理研究室リーダー

問い合わせ先

京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 事務局 梅垣
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
TEL: 075-641-9161 (内線6137) FAX: 075-645-8409

褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究

第一回班会議

日時: 2010年7月10日(土)
14:00~16:00

会場: 東京国際フォーラム G407

議題: 本年度の活動について

1.研究責任者からの方向

- | | |
|---------------------------|------------|
| 1)平成21年度事業報告 | 成瀬光栄 (10分) |
| 2)平成22年度の研究事業の概要と組織及び役割分担 | 成瀬光栄 (10分) |
| 3)疾患レジストリー画面について | 鈴木知子 (10分) |
| 4)倫理委員会申請について | 成瀬光栄 (10分) |

2.病理解析実施にあたって

木村伯子 (10分)

3.遺伝子解析実施にあたって

竹越一博 (20分)

4.診療と研究の違いと倫理審査

川村 孝 (10分)

5.難病資源バンクの活用について~医薬基盤研究所から

増井 徹 (10分)

6. 稀少疾患対策:レジストリ、データベース、

そして何が期待され得るか 加藤規弘 (10分)

7事務連絡事項

成瀬光栄 (10分)

研究代表者 成瀬 光栄 国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長

研究分担者

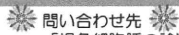
- | | |
|--------|--|
| 島本 和明 | 札幌医科大学 学長 |
| 伊藤 貞嘉 | 東北大学 内科病態学講座腎・高血圧・内分泌内科 教授 |
| 橋本 重厚 | 福島県立医科大学 第三内科 教授 |
| 山田 正信 | 群馬大学 内分泌代謝学講座 講師 |
| 田辺 晶代 | 東京女子 医科大学第二内科 講師 |
| 平田 結喜緒 | 東京医科歯科大学 内分泌代謝内科 教授 |
| 高橋 克敏 | 東京大学 腎臓・内分泌内科 助教 |
| 柴田 洋孝 | 慶應義塾大学 腎臓・内分泌代謝内科 講師 |
| 方波見 卓行 | 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 内分泌代謝科 部長 |
| 櫻井 晃洋 | 信州大学医学部 遺伝医学・予防医学 准教授 |
| 竹越 一博 | 筑波大学大学院 人間総合科学研究科病態制御医学臨床分子病態検査医学 准教授 |
| 沖 隆 | 浜松医科大学 第二内科 講師 |
| 宮森 勇 | 福井大学 第三内科 教授 |
| 中尾 一和 | 京都大学 内分泌代謝内科 教授 |
| 栗木 宏実 | 大阪大学 老年・腎臓内科学講座 教授 |
| 岩崎 泰正 | 高知大学 内分泌代謝・腎臓内科・保健管理センター 教授 |
| 高柳 涼一 | 九州大学 病態制御内科 教授 |
| 松田 公志 | 関西医科大学 泌尿器科 教授 |
| 絹谷 清剛 | 金沢大学 核医学診療科 教授 |
| 織内 昇 | 群馬大学 放射線診療核医学講座 准教授 |
| 吉永 恵一郎 | 北海道大学大学院医学研究科連携研究センター 分子・細胞イメージング部門 光生物学分野 准教授 |
| 木村 伯子 | 国立病院機構 函館病院 臨床検査部病因病態研究室 室長 |
| 山崎 力 | 東京大学 臨床疫学システム講座 教授 |
| 川村 孝 | 京都大学 保健管理センター 内科学・疫学 教授 |
| 棚橋 祐典 | 旭川医科大学 小児科 助教 |
| 加藤 規弘 | 国立国際医療センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部 部長 |
| 竹内 靖博 | 虎の門病院内分泌センター 部長 |
| 加藤 良平 | 山梨大学医学部 人体病理学講座 教授 |
| 新保 卓郎 | 国立国際医療研究センター 医療情報解析研究部 部長 |

研究協力者

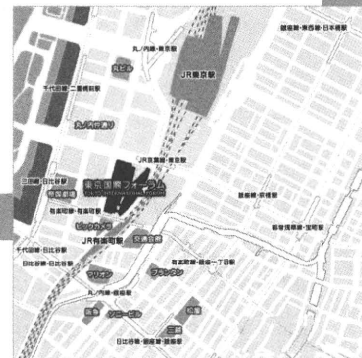
- | | |
|--------|------------------------|
| 浦 信行 | 手稲溪仁会病院 総合内科 部長 |
| 大谷 すみれ | 国立病院機構埼玉病院 統括診療部内科 医長 |
| 齋藤 淳 | 横浜労災病院 内分泌・代謝内科 部長 |
| 佐野 壽昭 | 虎の門病院 病理部 医師 |
| 鈴木 知子 | 国立国際医療研究センター 医療情報解析研究部 |

研究アドバイザー

- | | |
|------|--|
| 増井 徹 | 独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部 部長
政策・倫理研究室リーダー |
|------|--|



問い合わせ先
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」研究班 事務局
京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 担当 梅垣
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
TEL : 075-641-9161 (内線6137) FAX : 075-645-8409



主催：平成22年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」
後援：褐色細胞腫を考える会

難病事業の現状と今後の課題 -患者会とのパートナーシップの意義-

日時： 2010年7月10日（土）
16：30～18：00

会場： 東京国際フォーラム G407
東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
電話：03-5221-9000（JR有楽町駅前）

目的 難治性疾患克服研究事業の情報公開と社会貢献

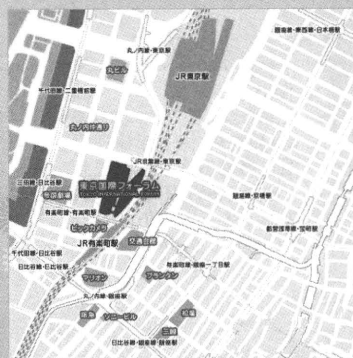
議 題

1. 難病研究の目的と概要
2. 患者登録の目的と意義
3. 倫理的課題
4. 患者手帳の意義と課題
5. 意見交換会

出席者（予定）

- ・ 成瀬 光荣 国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長
- ・ 「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」班 班員
- ・ 及川 信 患者会代表
- ・ 「褐色細胞腫を考える会」会員

問い合わせ先
京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 事務局 梅垣
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
TEL：075-641-9161（内線6137） FAX：075-645-8409





主催 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究班」
「副腎ホルモン産生異常に関する調査研究 分担研究」
第14回日本内分泌病理学会学術総会



公開合同サテライトシンポジウム

参加費
無 料

内分泌難病対策の今後と難病研究資源バンクの活用

日時: 2010年10月30日(土) 14:45~15:45

会場: ハイアットリージェンシー 京都 ポールルーム II

座長 成瀬 光栄 (国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長)

加藤 規弘 (国立国際医療センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部 部長)

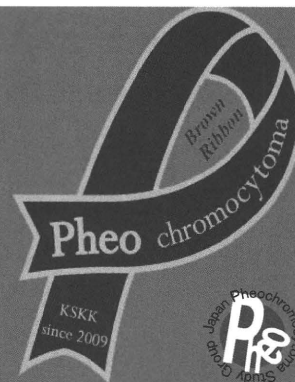
プログラム

- 14:45~14:50 背景説明 成瀬 光栄
- 14:50~15:05 1. 難病研究資源バンクについて
増井 徹 (独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部 部長)
- 15:05~15:20 2. 人工多能性幹細胞(iPS細胞)の委託作製とバンク化
江良 択実 (熊本大学発生医学研究所幹細胞誘導分野 教授)
- 15:20~15:35 3. 欧米における稀少疾患対策の動向
加藤 規弘 (国立国際医療研究センター-遺伝子診断治療開発研究部 部長)
- 15:35~15:45 4. 難治性内分泌疾患における取組みと課題
成瀬 光栄 (国立病院機構京都医療センター-内分泌代謝高血圧研究部 部長)

お問い合わせ先
公開シンポジウム 開催事務局 (梅垣)
第14回日本内分泌病理学会学術総会 運営事務局内
国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
電話 075-645-8401(内線6137) FAX:075-645-8409
E-mail:keumegak@kyotolan.hosp.go.jp

褐色細胞腫 市民公開シンポジウム

Pheochromocytoma Symposium 2010 (第2部)



-患者と医師のパートナーシップ-

より良い難病対策を目指して

日時:2010年12月18日(土)

16:50~18:10 (16:40開場予定)

会場:全国町村会館 大ホール

東京都千代田区永田町1丁目11-35

参加費無料
定員 130名

※駐車場のスペースが限られておりますので車での来場はご遠慮ください。

申込:FAXまたはE-mailにて事務局まで

共催
・患者会『褐色細胞腫を考える会』
・医師・研究者
厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」班
『副腎ホルモン産生異常に関する調査研究』班(分担研究)
日本内分泌学会 悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成 検討委員会
国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部

後援学会
日本内分泌学会 日本高血圧学会 日本高血圧協会 日本内分泌外科学会
日本泌尿器科学会 日本核医学会分科会・腫瘍免疫核医学研究会
日本内分泌病理学会 日本医師会 日本癌学会

総合司会 及川 信(褐色細胞腫を考える会 代表)
成瀬光栄(褐色細胞腫」研究班 研究代表者)



●有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
●丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩5分

プログラム

- 1 医師・研究者の取り組み (15分) 成瀬光栄
- 2 患者会の取り組み: 患者手帳の作成と活用 (15分) 小柳 功
(褐色細胞腫を考える会 副代表)
- 3 患者と医師のパートナーシップの今後 (30分) パネル討論
- 4 患者会の運営について【一般公開型患者会】 (20分)

褐色細胞腫シンポジウム開催事務局

国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1

TEL:075-645-8401(内線6137) FAX:075-645-8409 E-Mail: keumegak@kyotolan.hosp.go.jp (担当 梅垣)



主催 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：
 ・褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究班
 ・難病研究資源バンク研究開発事業
 ・副腎ホルモン産生異常に関する調査研究班(分担研究)
 日本内分泌学会：悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成 検討委員会
 国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部

～ 難治性副腎疾患の現状と今後の展開 ～

Pheochromocytoma Symposium 2010

日時:2010年12月18日(土)

13:00～16:30(12:30開場)

会場:全国町村会館 大ホール

東京都千代田区永田町1丁目11-35

※駐車場スペースの関係で車の来場はご遠慮ください。

後援学会：日本内分泌学会 日本高血圧学会 日本高血圧協会 日本内分泌外科学会
 日本泌尿器科学会 日本核医学会分科会・腫瘍免疫核医学研究会 日本内分泌病理学会 日本医師会 日本癌学会

総合司会 成瀬光栄

開会の挨拶 札幌医科大学学長・日本高血圧学会理事 島本和明

患者会よりご挨拶「褐色細胞腫を考える会」代表 及川 信

参加費無料
定員 130名

申込方法：FAXまたはE-mailにて事務局まで



●有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
 ●丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩5分

Session 1

PHEO対策の現状・今後

- 13:00-13:30 座長 楽木宏実(大阪大学 老年腎臓内科教授)
 山崎 力(東京大学 臨床疫学システム講座教授)
 1. 我が国の難病対策の現状 中川義章(厚生労働省健康局疾病対策課 課長補佐)
 2. 褐色細胞腫研究(PHEO-J研究)の現状と今後の展開 成瀬光栄
- 13:30-14:00 座長 宮森 勇(福井大学 内科学3教授)
 伊藤貞嘉(東北大学 腎・高血圧・内分泌内科教授)
 3. 分子標的治療の動向 田辺晶代(東京女子医科大学 第二内科講師)
 4. 「副腎資源バンク」構築の取り組み 成瀬光栄

Session 2

横断的難病対策との連携

- 14:00-14:30 座長 高柳涼一(九州大学大学院医学研究院長)
 新保卓郎(国立国際医療研究センター 医療情報解析研究部部長)
 1. 難病資源バンクの活用と今後の展開
 増井 徹(独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部部長)
 2. 希少疾患対策とレジストリー・データベース
 加藤規弘(国立国際医療研究センター遺伝子診断治療開発研究部部長)

-----休憩-----

Session 3

国内外の難病診療の現状

14:40-15:30 特別講演Ⅰ 座長 松田公志(関西医科大学 泌尿器科教授)
Pheochromocytoma in the USA : Then and Now
 William F. Young Jr. Professor, Department of Endocrinology, Mayo Clinic, Rochester, MN, USA
 追加発言: Pheochromocytoma in China
 Zheng-pei Zeng Professor, Department of Endocrinology, Peking Union Medical College Hospital, Beijing, China

15:30-16:20 特別講演Ⅱ 座長 平田結喜緒(東京医科歯科大学 内分泌代謝内科教授)

わが国における原発性アルドステロン症診療の今後
 猿田享男 慶応義塾大学 名誉教授 (指定ディスカッサント W.F. Young Jr.)

褐色細胞腫の今後の展開 労働者健康福祉機構 東北労災病院 院長 三浦幸雄

褐色細胞腫シンポジウム開催事務局 国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内 〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1
 TEL:075-645-8401(内線6137) FAX:075-645-8409 E-Mail: keumegak@kyotolan.hosp.go.jp (担当 梅垣)

平成22年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」

副腎資源バンクの構築と運用(案)

- コアメンバー打合せ会 -

～難治性疾患研究資源バンクの活用とその方向性について～

日時: 2011年2月25日(金)
18:30～21:00

会場: 東京国際フォーラム ガラス棟G609
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
☎: 03-5221-9000

プログラム

1. 副腎資源バンクについて 事業の概要(30分) 成瀬 光栄
①目的
②組織・体制
③倫理的措置について
④経費
⑤実施の流れ
譲渡、管理・保存、譲受
⑦問題点と今後の課題
⑧役割分担とスケジュール
2. 希少疾患対策とレジストリー・データベースについて(30分) 加藤 規弘
3. 難病資源バンクの活用について(30分) 増井 徹
4. 討論会(30分)

参加予定

成瀬 光栄	国立病院機構京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長
高柳 涼一	九州大学 理事(副学長) 病態制御内科 教授
川村 孝	京都大学 保健管理センター 内科学・疫学 教授
松田 公志	関西医科大学 泌尿器科 教授
加藤 規弘	国立国際医療研究センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部 部長
柳瀬 敏彦	福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 教授
増井 徹	独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部 部長 政策・倫理研究室リーダー
田辺 晶代	東京女子医科大学 第二内科 講師

問い合わせ先

厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」班事務局
京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部内
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1 TEL: 075-641-9161 (内線6137) FAX: 075-645-8409

シンポジウム
配布資料

～ 難治性副腎疾患の現状と今後の展開 ～

Pheochromocytoma Symposium 2010

日時 :2010年12月18日(土) 13:00～16:30(12:30開場)

会場 :全国町村会館 大ホール

東京都千代田区永田町1丁目11-35



主催 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業:
・褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究班
・難病研究資源バンク研究開発事業
・副腎ホルモン産生異常に関する調査研究班(分担研究)
日本内分泌学会:悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成 検討委員会
国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部
NHOネットワーク共同研究 PHAS-J2研究班

後援学会 日本内分泌学会 日本高血圧学会 日本高血圧協会 日本内分泌外科学会
日本泌尿器科学会 日本核医学会分科会・腫瘍免疫核医学研究会 日本内分
泌病理学会 日本医師会 日本癌学会

Pheochromocytoma Symposium 2010

プログラム

総合司会 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

「褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究」班研究代表者

成瀬光栄(国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長)

指定ディスカッサント William F. Young Jr. (Professor, Department of Endocrinology, Mayo Clinic, Rochester, MN, USA)

12:30 開場/受付

13:00 開 会

13:00~13:05 開会の挨拶 島本和明(日本高血圧学会 理事・札幌医科大学 学長)

13:05~13:10 患者会よりご挨拶 「褐色細胞腫を考える会」 代表 及川 信

13:10~14:00 Sssion1 PHEO 対策の現状・今後

座 長 楽木宏実(大阪大学 老年腎臓内科教授)

山崎 力(東京大学 臨床疫学システム講座教授)

1. 我が国の難病対策の現状 中川義章(厚生労働省健康局疾病対策課 課長補佐)

2. 褐色細胞腫研究(PHEO-J 研究)の現状と今後の展開 成瀬光栄

座 長 宮森 勇(福井大学 内科学 3 教授)

伊藤貞嘉(東北大学 腎・高血圧・内分泌内科教授)

3. 分子標的治療の動向 田辺晶代(東京女子医科大学 第二内科講師)

4. 「副腎資源バンク」構築の取り組み 成瀬光栄

14:00~14:30 Session2 横断的難病対策との連携

座 長 高柳涼一(九州大学大学院医学研究院院長)

新保卓郎(国立国際医療研究センター 医療情報解析研究部部長)

1. 難病資源バンクの活用と今後の展開

増井 徹(独立行政法人 医薬基盤研究所 難病・疾患資源研究部部長)

2. 希少疾患対策とレジストリー・データベース

加藤規弘(国立国際医療研究センター研究所 遺伝子診断治療開発研究部部長)

14:30~14:40 休 憩

14:40~16:20 Session3 国内外の難病診療の現状

特別講演 I 座 長 松田公志(関西医科大学 泌尿器科教授)

Pheochromocytoma in the USA : Then and Now William F. Young Jr.

追加発言:Pheochromocytoma in China Zheng-pei Zeng

Professor, Department of Endocrinology, Peking Union Medical College Hospital, Beijing, China

特別講演 II 座 長 平田結喜緒(東京医科歯科大学 内分泌代謝内科教授)


わが国における原発性アルドステロン症診療の今後 猿田享男 慶応義塾大学 名誉教授

16:20~16:25 褐色細胞腫の今後の展開 三浦幸雄(労働者健康福祉機構 東北労災病院 院長)

2. 褐色細胞腫研究(PHEO-J 研究)の現状と今後の展開 成瀬光栄

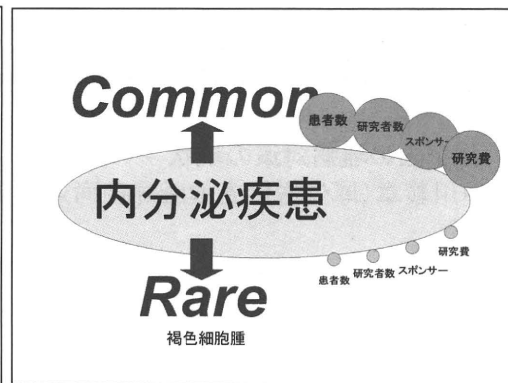
Pheochromocytoma Sympo 2010
2010年12月18日

難治性内分泌疾患
—褐色細胞腫研究の現状と今後の展開—

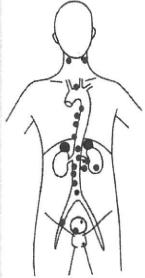


PHEO-J

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究
成瀬 光栄



褐色細胞腫



- ・副腎髓質・傍神経節から発生
- ・カテコールアミン過剰
- ・発作性高血圧、不整脈、代謝異常

ホルモン測定

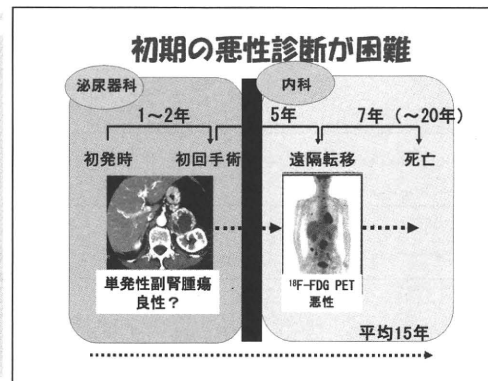
CT・MRI

↓

手術

↓

完治(90%)



褐色細胞腫の臨床的課題

1. 悪性腫瘍の割合が高い
2. 初回の良・悪性診断が不可能
3. 長期経過後に多発・遠隔転移
4. 治療法が未確立

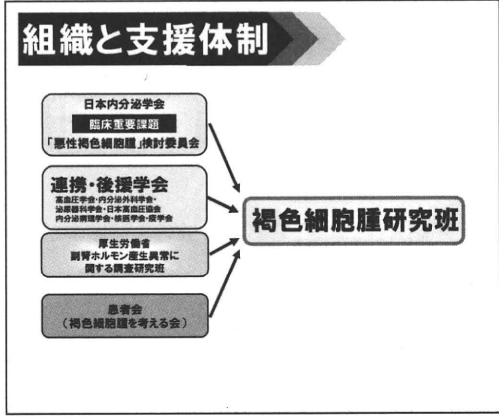
現在までの取り組み

2006	褐色細胞腫ワーキンググループ
2007	日本内分泌学会臨床重要課題 悪性褐色細胞腫検討委員会
2009	厚生労働省難治性疾患克服事業 研究奨励分野(1年) 患者会「褐色細胞腫を考える会」発足
2010	厚生労働省難治性疾患克服事業 研究奨励分野(2年)

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
**「褐色細胞腫の実態調査と
 診療指針の作成」研究班**

1. 全国疫学調査
2. 診療指針作成

研究代表者 成瀬 光栄
 国立病院機構京都医療センター



全国疫学調査

調査にご協力ください

褐色細胞腫

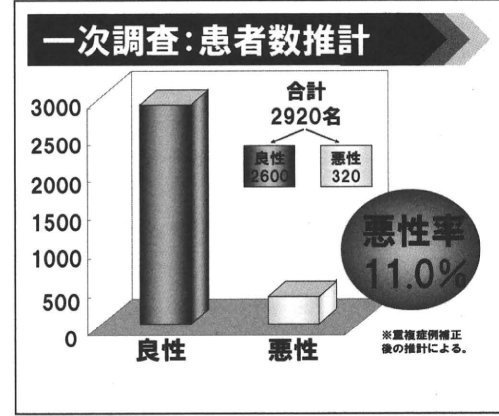
褐色細胞腫について

- ① 悪性の割合が高い
10.4% (悪性) vs 8.2% (良性)
- ② 初回の悪性診断が困難
・後年に再発再発、遠隔転移

大部分が治癒します
しかし、10-20%が悪性

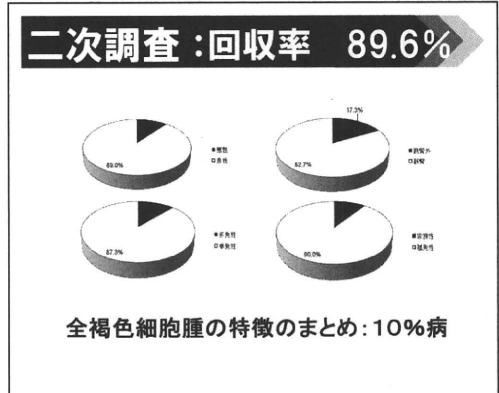
先生方のご協力が
私達の未来に繋がります

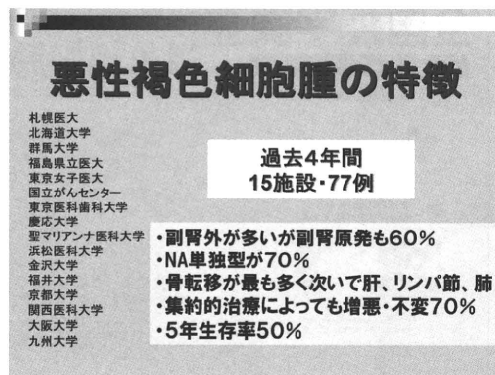
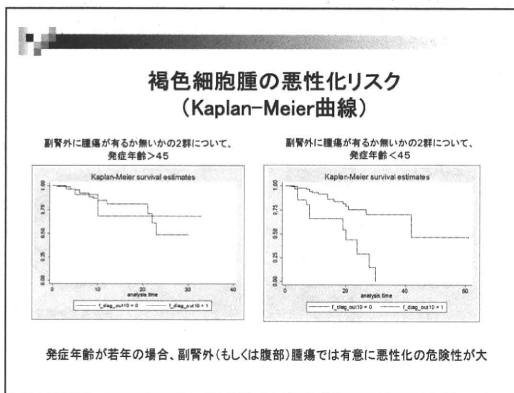
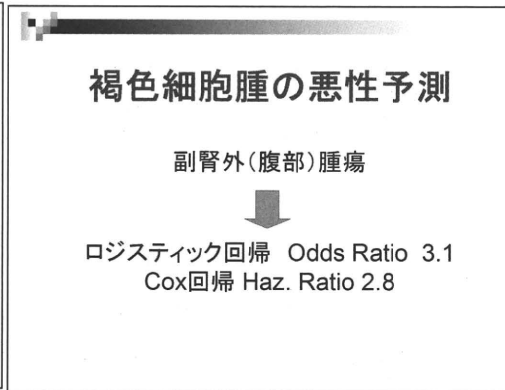
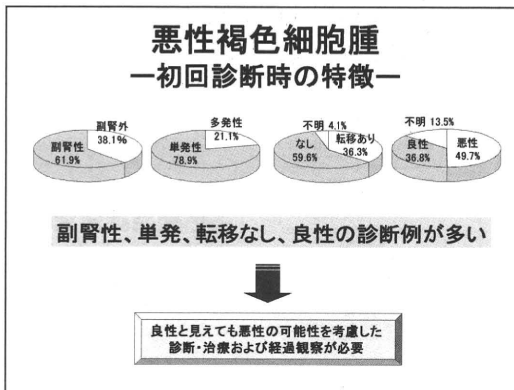
※悪性率 11.0% (※重複症例補正後の推計による)



従来の調査結果との比較

	副腎ホルモン産生異常症調査研究班 (竹田班) ¹⁾	副腎ホルモン産生異常症調査研究班 (名和田班) ²⁾	褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成研究班 (成瀬班) ³⁾
調査期間	1973-1982 (10年間)	1997年 (1年間)	2008年 (1年間)
対象施設	300以上の病院	全ての大学病院・一般病院から層別無作為抽出	全ての大学病院・一般病院から層別無作為抽出
対象診療科	内科、小児科、外科、泌尿器科	内科、内分泌代謝科、小児科、脳外科、泌尿器科	内科、泌尿器科、外科、小児科、泌尿器科、放射線科、小児外科
対象診療科数		4,060	5,912 (院内標榜6,303)
一次調査症例数	862/10年	522/1年	1,649/1年
推計患者数 [95%信頼区間]		1,030	2,920
二次調査回答数	493	279	1,118
悪性	10.8%	10.8%	11.0%





褐色細胞腫診療指針2010

目次

- 第1章 総論
 - 1. 背景
 - 2. 診断
 - 3. 治療
 - 4. 予後
 - 5. 今後の課題
 - 6. 参考文献
 - 7. 謝辞
- 第2章 診断
 - 1. 問診
 - 2. 身体診察
 - 3. 検査
 - 4. 画像診断
 - 5. 遺伝学的検査
- 第3章 治療
 - 1. 手術
 - 2. 化学療法
 - 3. 放射線療法
 - 4. 緩和ケア
 - 5. 今後の課題

執筆委員(14名)
↓
査読委員(16名)
↓
執筆委員(14名)
↓
内部評価委員(4名)
↓
外部評価委員(5名)
↓
執筆委員(14名)
査読委員(16名)
↓
診療指針ver.4.3

褐色細胞腫・パラガングリオーマの診断基準

必須項目

- 副腎腫瘍または傍神経節組織由来を示唆する腫瘍(注1)

副項目

- 病理所見:褐色細胞腫の所見(注2)
- 検査所見
 - 尿中アドレナリンまたはノルアドレナリンの高値(注3)
 - 尿中メタネフリンまたはノルメタネフリンの高値(注3)
 - クロニジン試験陽性(注4)
 - ①-③のうち1つ以上の所見があるときを陽性とする。
- 画像所見
 - ¹²³I-MIBGシンチグラフィで腫瘍に取り込み(注5)
 - MRIのT2強調像で高信号強度

・確定例: 1) 必須項目1 + 副項目1
2) 必須項目1 + 副項目2 + 副項目3-①
・疑い例: 1) 必須項目1 + 副項目2 + 副項目3-②
2) 必須項目1 + 副項目3-①
・除外項目: 偽性褐色細胞腫

注1: 現在、過去の時期を問わない。副腎腫瘍由来を褐色細胞腫、傍神経節組織由来をパラガングリオーマと特す。
注2: 腫瘍細胞の大部分がクロモグリンA陽性であること。
注3: 基準値以上の3倍以上を陽性とする。偽陽性や偽陰性があった場合、再度測定が推奨される。
注4: ノルアドレナリン高値時のみ、負荷後に前値の1/2以上ある12500pg/ml以上の場合は陽性とする。
注5: ¹²³I-MIBGシンチグラフィを含む。